心のふるさと
前川原

編集発行
幹部候補生学校
同期生会連合会・OB会
令和８年６月26日

【印刷】香和印刷㈱
久留米市津福本町2320-15
TEL0942-38-3111

ONE TEAM
陸上自衛隊幹部候補生学校

令和8年度合同入校式

647名が入校

陸上自衛隊幹部候補生学校（学校長 香川 賢士陸将補）は、4月3日(金)、第107期一般幹部候補生(防大・一般大卒)課程、第107期一般幹部候補生(部内選抜)課程(前段)、第62期医科・歯科幹部候補生課程、第9期看護科幹部候補生課程及び第1期キャリア採用幹部課程の計647名に対し、陸上幕僚副長（徳永 勝彦 陸将）立会の下、入校式を執り行った。

今年度は、陸上自衛隊として初めてキャリア採用幹部が7名、一般幹部候補生(専門要員)が9名、それぞれ入校した。

入校式では、久留米市長(原口 新五 様)、防衛大学校副校長（足立 吉樹 陸将）等多数の部内外来賓の立会のもと、候補生による任命、宣誓及び入校申告が行われた。

香川学校長は、式辞において「常にベストを尽くすこと」、「同期で『ONE TEAM』になること」を要望し、「新入生諸官へ。諸官は、本入校式において感じている不安と期待、緊張感と高揚感、『ONE TEAM』となる同期と出会った感動を決して忘れないでほしい。学校長以下全ての学校職員は、諸官との出会いを大きな喜びと感じるとともに、率先垂範、苦楽を共にして諸官を導いていくことを誓う。」と歓迎の言葉を送った。

続いて、徳永陸上幕僚副長から「幹部自衛官としての使命感を確立せよ。」、「目的意識を持ち、主体的に修学せよ。」の二点の要望事項と、「本校入校間、全力で修養に励み、規律の維持や遵法精神によって国民の信頼を益々深めるとともに、利他心をもって同期生と切磋琢磨し、揺るぎない絆を育ててもらいたい。その絆は卒業以降も続くものであり困難に直面した際に心の支えになるであろう。同期の絆を大切にし、共に助け合う存在であってもらいたい。」と期待の言葉が贈られた。

来賓を代表して原口久留米市長からは、「開校以来、脈々と受け継がれる「質実剛健にして清廉高潔」の校風とともに、香川学校長をはじめ教官の皆様のご指導を通じて皆様は陸上自衛隊の中枢を担う幹部としての教育や訓練を受け、心身の鍛錬と知識や技能を修得する日々が待っています。国民の信頼を得、その期待に応えることのできる幹部としての資質を身に付けられますようご期待を申し上げます。」との祝辞を頂いた。

また、入校式には約500名の候補生の家族が参加し、各候補生は、着校から数日間で成長した自身の姿を披露するとともに、会食においては家族との時間を楽しんでいた。

入校式を終えた候補生は、決意を新たに前川原での教育に挑むことになる。

服務の宣誓

学校長訓示

祝賀会食

祝 卒業

第106期一般幹部候補生課程(部内)後段
《候補生216名が卒業》

陸上自衛隊幹部候補生学校（学校長 香川 賢士陸将補）は、3月6日(金)、第106期一般幹部候補生（部内選抜）課程（後段）216名に対する教育を修了し、陸上幕僚副長（徳永 勝彦陸将）立会の下、卒業行事を執り行った。

卒業式では福岡県隊友会会長 林田 和彦様、西部方面総監（鳥海 誠司陸将）等多数の部内外来賓が見守る中、学校長が候補生一人ひとりに卒業証書を授与した。式辞において学校長は、「訓練を重ねるにつれ、自主自律の精神が芽生え、教官たちに言われなくても「常にベストを尽くしていく」姿が見られた際は、我々学校職員にとって本当に嬉しい思いがしました。そして、何よりも、困難な状況下でもやり抜く、オールアウトしようとする姿勢から、陸曹、陸士時代に部隊で鍛えられてきたI幹部の意地と誇りが伝わってきた。」と労いの言葉を述べた後、「全国各地の部隊で、部下たちが待っている。自信と誇り、そして覚悟をもって原隊へ復帰せよ。」と候補生に餞の言葉を贈った。

続いて、徳永陸上幕僚副長が「本日より諸官が歩んでいく道は平坦な道程ではないかもしれない。しかし、諸官には共に学び合った同期生がいる。その絆は卒業以降も続くものであり、困難に直面した際に心の支えになる。本校卒業以降も同期の絆を継続し、共に助け、支え合う存在であって貰いたい。」と陸上幕僚長の訓示を代読された。

卒業式後には記念会食が行われ、ご来賓の方々や学校職員、家族に対して感謝の意を伝え、約6ヶ月の教育を終えた候補生は、盛大な拍手と激励に見送られながら自信と誇りを胸に、笑顔で幹部候補生学校から羽ばたいていった。

卒業証書授与

卒業生見送り

祝 着校

3月下旬、希望に満ち溢れた約650名の入校者が幹部候補生学校（前川原駐屯地）に着校した。

今年度、特に注目を集めるのが初めての「第一期キャリア採用幹部」7名であり、全員が民間の医療現場で昼夜を問わず命と向き合ってきた現役看護師である。少し緊張した面持ちで正門をくぐるその眼差しには、確かな覚悟が宿っていた。

彼らは一般大学の出身者と共に先着し、後から合流した防衛医科大学校出身や全国の部隊からの選抜者と顔を合わせた。年齢も経歴も全く異なる若者たちが、幹部自衛官になるという共通の志のもと、同じ教育訓練環境で絆を深めていく。

一人のキャリア採用幹部は力強く語る。

「医療現場の経験を糧に、より大きな責任の下で人命を守る任務に尽くします。経歴の違う同期とも『ONE TEAM』となり共に成長したいです」

新しい風と伝統が交わる幹部候補生学校に着校したキャリア採用幹部や候補生は、同期との絆を胸に、切磋琢磨し、常にベストを尽くして困難を乗り越え、次代のリーダーとしての期待を背負い成長していくことになる。

着校時のキャリア採用幹部

着校報告の様子

入校時体力検定

第107期一般幹部候補生（防大卒・一般大卒）課程

第107期一般幹部候補生（防大卒・一般大卒）課程の候補生は4月10日(金)及び13日(月)、入校時体力検定を候補生隊毎に実施した。

入校間もない候補生達は、腕立て伏せ、腹筋、3000m走及び100mシャトルランの順で検定に臨み、到達基準を目指し、自らの体力の限界に挑戦した。

到達基準をクリアできた候補生も、惜しくも到達出来なかった候補生も、今回の結果を基に新たな目標を掲げ、更なる成長と健全な肉体を目指して日々の体力練成に励んで行く。

嬉野現地教育

第62期医科歯科幹部候補生課程
第9期看護科幹部候補生課程
第1期キャリア採用幹部課程

第62期医科歯科幹部候補生課程、第9期看護科幹部候補生課程の候補生及び第1期キャリア採用幹部課程の学生は、5月8日(金)から9日(土)にかけて、佐賀県の嬉野地区において現地教育を実施した。

校内での教育を踏まえ、実際に地域等を利用して現地を確認し、かつ自分の意見を整理して論理的な発表・討議を中心に教育を進めた。本教育は、部隊行動に関する実際的な尺度や表現・説得力を向上させるのに非常に有意義であり、教育に参加した候補生からは、「現地教育を通じて、平面的な判断だけでなく、実際の地形や地物、装備品の能力等、総合的に判断することが重要であることを強く認識できた。」との所見を得た。

大野原訓練

第107期一般幹部候補生（部内選抜）課程（前段）

第107期一般幹部候補生（部内選抜）課程（前段）は、5月26日(火)から30日(土)の間、大野原演習場において、課目「分隊攻撃」「前衛分隊」「40㎞徒歩行進」を実施した。幹部候補生学校入校以来初の野外訓練ということもあり、候補生137名全員が職種、部隊の垣根を乗り越え、気温も高い厳しい環境の中、一致団結して訓練に臨んだ。

特に40㎞徒歩行進においては、体力が落ちてきた候補生をフォロー（荷物を分配する等）し合って全員が完歩した。さすがはI課程という姿勢を示した。

次の武装障害走検定、大矢野原訓練、50㎞徒歩行進訓練、そして教育の集大成である総合訓練に繋がる成果を得ることができた。

高良山記録会

第62期医科歯科幹部候補生課程
第9期看護科幹部候補生課程
第1期キャリア採用幹部課程

第62期医科歯科幹部候補生課程、第9期看護科幹部候補生課程、第1期キャリア採用幹部課程は、5月22日(金)本校の伝統行事である高良山登山走を実施した。

候補生は、隊友会、幹部候補生学校OB会及び自衛隊福岡病院等、約150名の激励を受け、幹部候補生学校から高良大社までの距離5.6㎞、標高差156mのコースを全員が最後まで諦めることなく完走を果たした。

特に、看護科幹部候補生の沓掛候補生（自衛隊札幌病院）が21分57秒の記録で同課程の歴代記録を3分13秒更新する快挙を達成した。

沓掛候補生は、「自分の力だけでなく、つらい局面で支えになったのは、周りの応援及び区隊のみんなの存在でした。区隊全員で走り切った思い出は一生忘れません。」とコメントしていた。

今年度採用された自衛隊経験のないキャリア採用幹部や運動経験の少ない候補生が多数存在するなか、互いに励まし合い、助け合いながら努力を重ねたことで、体力の向上はもとより区隊の団結も一層強まった。

総合訓練

第62期医科歯科幹部候補生課程
第9期看護科幹部候補生課程
第1期キャリア採用幹部課程

第62期医科歯科幹部候補生課程、第9期看護科幹部候補生課程及び第1期キャリア採用幹部課程は、5月13日(水)から5月18日(月)の間、大矢野原演習場において、総合訓練を実施した。幹部候補生学校に入校して約2か月、短い期間でひたむきに幹部自衛官として必要な資質、体力を作り上げ、臨んだ総合訓練であり、候補生たちの気勢は最高潮であった。訓練は、32㎞徒歩行進から分隊攻撃と一連の状況下で実施したが、一人も欠けることなく、5月では10年ぶりとなる猛暑日を記録する中、候補生132名全員が一致団結して、任務を達成した。

特に候補生は総合訓練において、徒歩行進から攻撃目標奪取の最後まで、諦めない不撓不屈の精神を貫き、任務達成にまい進する姿は、卒業後の幹部としての自信に繋がることとなった。

コラム　剛健

「一隅を照らせ」

第4候補生隊長
2等陸佐　木下 乾一

『一隅を照らせ』は、私が現在要望事項の一つとして、仏教天台宗を開いた伝教大師最澄が著された「山家学生式」の冒頭にある『照干一隅　此則国宝』：「一隅を照らす、これすなわち国宝なり」から引用させていただいているものであり、更に前向きに実行して欲しい願いを込めて、敢えて「せ」としています。今回は僭越ながら、幹部候補生教育において「重視して涵養すべき資質」の一つ、『利他心』の育成に関連し、候補生隊の長として勤務している所信の一端を述べさせていただきます。

『照干一隅　此則国宝』には、諸説ありますが『自分自身がその位置する場所においてできる限り精一杯努力し自分自身が輝き、見返りを求めず誠実を尽くして周りや社会全体を照らす力になる。このような人物が国の宝である。』という意味があります。「一隅」とは、一般的には社会や組織の隅や目立ちにくい場所のことを指し、陸上自衛隊でいえば、表舞台には出ない縁の下の力持ちのような部署や隊員、また、普段の激務に疲れ中々前向きに頑張れない者、才能を開花しきれない者を指すと思っています。一方、我々の本来の任務に立ち返れば、我々が真に照らすべき対象は事態発生により困っている国民の皆様でしょう。災害派遣や有事における自衛官は、国家国民の『希望の星』とも言い換えることができます。

幹部候補生教育において候補生に求める姿も同様であるべきです。自らの限界を追い求めつつ、その姿を同期で認め合い、切磋琢磨する。時には落ち込み、時には挫折しそうになる。そんな時に自分という存在が同期の『希望の星』となり、同期が輝く添加剤になる。逆も然りです。

厳しい状況においても他を思いやり自らを律し利己的になることを戒める。部隊隊員や国家国民の「一隅」を見逃さず、自ら輝き『希望の星』となれる。そんな幹部候補生の育成を目標に、候補生隊職員一同引き続き職務に邁進します。

知識の泉

「バルクマン・コーナー」

第1教育科　戦術教官
3等陸佐　眞部 恭敬

一九四四年七月、フランスのノルマンディー地方のル・ロレイにある交差点で、ドイツ軍のパンター戦車一両が、米陸軍のM4中戦車9両を撃破しました。この圧倒的な戦いから、戦闘を指揮した戦車長の名前をとって、その交差点は後にバルクマン・コーナーと呼ばれるようになりました。(エルンスト・バルクマン曹長は生涯で約八二両の戦車を撃破したと言われるパンター戦車のエース)

私がこの話を知ったのは小学生の頃、今は廃刊となっている専門誌の短いコラムでした。「たった一両の戦車で次々と敵を倒した！」その出来事に少年の頃の自分は興奮し、強い興味を抱きました。それがきっかけとなって、戦術や戦史を学ぶことが趣味となり、関連する本を数多く読むことに繋がりました。

時間は流れ、今は幹部候補生学校で戦術教育を担当させて頂く機会を頂きましたが、誰もが自分と同じではなく、戦術に対して苦手意識やアレルギーのある候補生は少なからず存在します。一人でも多くの候補生に戦術への興味や関心を持って欲しい。私は、いつもそう思いつつ教育しております。

少年の頃の私のように、何らかの小さなきっかけが、知識の泉の源となることは珍しくありません。映画でもアニメでも漫画でもよいので、戦術に興味を持つ出会いが候補生諸官にあればいいなと常々思うところであります。

教育時の眞部3佐

候補生の声

第1期 キャリア採用幹部課程
第1候補生隊 第5区隊
2等陸尉　高橋 玲於奈

本年度より新設されたキャリア採用幹部課程の第一期生として入校するにあたり、その重責と期待の大きさに、身が引き締まる思いである。

本課程は、自衛隊における新たな人材育成の在り方を示すものであり、その成否の一端を担う立場にあることを強く自覚している。私はこれまで看護師として勤務する中で、救急看護に携わりたいという思いを抱き、人命に直結する現場で責任の重さと向き合ってきた。更に、近年の災害の増加を踏まえ、平時のみならず有事においても迅速かつ的確に対応できる看護の重要性を強く認識している。こうした経験と問題意識を背景に、自衛隊という組織の中でより大きな責任の下、人命を守る任務に携わりたいと考え、本課程への入校を志した。幹部自衛官には、専門的知識や技術に留まらず、隊員を統率し、いかなる状況においても任務を遂行するための判断力と実行力が求められる。これまでの経験に安住することなく、自らを厳しく律しながら、幹部としての資質を高めていく決意である。また、自身の課題として相手の誤りに対する伝え方に改善の余地があると認識している。幹部としては、単に正しさを示すのではなく、相手の理解と成長に繋がる指導が求められる。今後は相手の立場や状況に配慮した伝達を徹底し、信頼される伝達力の向上に努めていきたい。看護官としては、救急看護に加え災害看護の分野においても実践的な能力を高めていく必要があると考えている。限られた資源や過酷な環境下においても冷静に状況を判断し、優先順位を的確に見極めながら隊員の命を守ることが求められる。その使命を果たすため、知識・技術の向上のみならず、精神的な強さと柔軟な対応力を養っていきたい。

第一期生として求められるのは、課程を修了することに留まらず、その存在意義を体現し、後に続く者の基準となることである。その責任を真摯に受け止め、いかなる困難にも逃げることなく最後までやり遂げる覚悟である。そして、修了後には、本課程の価値を自らの姿で示し、看護官として人命を守り抜くとともに、幹部自衛官として部隊に確実に貢献し続ける存在となることをここに誓う。

令和8年度 駐屯地モニター紹介

上妻（こうづま） 七海（ななみ） 様

以前写真館に勤めていたころ、アルバムで何度も撮影に訪れておりました。今回は新たな立場で関われる事を嬉しく思います。1年間、どうぞよろしくお願い致します。

瀬戸（せと） 靖博（やすひろ） 様

自衛隊が担う活動は、国の防衛・災害派遣・国際協力など多種多様であり、国の根幹に関わる重要な仕事です。

幹部自衛官を目指される皆様方の活動から、私自身が学ばせていただきます。

田中（たなか） 真澄（ますみ） 様

モニターに選んでくださり、ありがとうございます。全国に3つある幹部候補生学校の一つが我が町久留米に在るとの事で、どのような教育や訓練が行われるのか興味を持っております。どうぞよろしくお願い致します。

吉田（よしだ） 朋幸（ともゆき） 様

駐屯地モニターとして1年間お世話になります。

幹部候補生学校の行事や生活状況を拝見し、色々な機会に候補生の皆さんの頑張りを発信していきたいと考えております。よろしくお願い致します。

定年退官・退職者紹介

長年の勤務を全うされ、退官を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

【定年退職】

総務部長
陸将補
一宮 大介
3月29日付

教育部
第1教育科長
1等陸佐
伊藤 憲孝
2月25日付

教育部
第2教育科
1等陸佐
川村 修司
3月16日付

総務部
管理科
陸曹長
清水 美和
4月12日付

総務部
管理科
陸曹長
有田 博
4月20日付

総務部
総務課
3等陸尉
清田 広史
5月29日付